

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100602		
法人名	特定非営利活動法人いきいき会		
事業所名	グループホームなごみ	ユニット名	西
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町須賀崎4丁目48番地		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4572100602-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、各利用者様の健康面、生活面、活動面等あらゆる場面において様々な取り組みを行っている。特に活動面については、温暖な気候や周囲の恵まれた環境を生かし、外気浴や施設近隣の見守りパトロール、近くのスーパーへの買い物等、屋外での活動(母の日・夏祭り・地域祭等)に力を入れており、生活リズムの調整や近所の住民との交流にも一役買っている。また、周辺症状に対して、効果があるといわれているタクティールケアを導入し、利用者様が穏やかな生活を送れるように対応している。この様なかわわりを通して、理念である「その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置き換えるケアを推進し、その人の『笑顔』がみたく」に沿ったケアを継続して行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

問題行動にはそれなりの理由があるはずだと、その行動を受容している。自分の親であればこういうケアをしたい、また、自身をケアされる側に置き換え、こういうケアをされたいという思いで、職員は日々のケアに取り組んでいる。立地条件を生かし、近くの温泉を利用したり、海浜公園に行くなど、気分転換を図り喜ばれている。また、近くの小学校の下校時を見計らい、利用者と共に見守りパトロールに出かけ、子どもたちと触れ合う機会もつくっている。ホームは、地域への貢献や交流を積極的に行い、実習生の受け入れや門川町社会福祉協議会と連携して、認知症サポーター講座を開催するなど、意欲的に活動している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	(西)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本として、グループホームを地域に開かれたものとし、地域社会の一員として支援に取り組んでいる。また、職員同士で理念に沿った支援の方法や評価、会議を通じて話し合い、実践につなげている。		2年前に、現状に即した理念に作り変えている。職員は、趣旨をよく理解し共有しており、自分の親だったら、また、自身がケアされる立場だったらどうであろうと振り返りながら、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の遠足や敬老会等に積極的に参加し、地域の人々との交流に努めている。定期的に事業所の行事(母の日、夏祭り等)にも地域の方に協力して頂き、開催し、交流を深めている。		地域の行事に参加したり、地域の祭りには庭園を休憩場所に提供するなど、交流を深めている。近隣の住民から、採れたての魚や野菜のおすそ分けもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「見守りパトロール」を実施したり、認知症サポーター養成講座の実施、門川高校生の実習を受け入れたりして、地域貢献活動としている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みやサービスの状況などを報告し、会議の中で出た意見やアドバイスを全職員に周知し、サービスの向上に活かしている。		利用者や周辺の区長3名が参加するなど、多彩なメンバーとなっている。避難訓練の対応について指摘を受け、改善するなど、出された意見や助言は運営の充実に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度についての問い合わせや確認などを積極的に行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。行事等がある場合は声掛けし、参加して頂き、情報収集も行っている。		町の担当者は、運営推進会のメンバーであり、情報の提供や助言を受けるなど、良好な関係である。ホームの行事への参加などにも協力的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修などから身体拘束の知識を深め、職員は常に介助方法の話し合いを持ちながら、身体拘束をしないケアを心がけている。		内部、外部研修で、拘束についての弊害は勉強し、理解をしている。帰宅欲求の強い利用者には、会話を試みたり、一緒に散歩に出るなど、その人の思いに沿うように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修には積極的に参加し、虐待は身体的虐待だけでなくことを周知し、どういった行為が虐待となるのか、日頃のケアの中にその可能性が潜んでいないかを毎月の勉強会の中で検証している。			

自己	外部	項目	自己評価	(西)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修に参加して勉強会を実施し、報告している。日常生活自立支援事業を2名の方が活用されている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の方に、不明な点の残らないように、話し合い、十分な説明を行うことで、理解、納得していただけるよう心がけている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会での意見、要望など、運営に反映させるようにし、運営推進会議などでも報告するようにしている。		家族会が2か月ごとに開催されており、意見や要望は運営に反映させている。運営推進会議にも多数の家族参加があり、指摘や要望を受け、改善の取組をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上の勉強会には代表者も参加され、運営に関する職員の意見や提案を聞き、反映させるようにしている。		毎月の勉強会には代表者も参加し、職員の意見や要望を聞き、運営に反映させている。入浴拒否の利用者を近くの温泉に連れて行くことなどを提案し、実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りに努め、各自が向上心を持って働けるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、各自の力量を把握した上で、外部研修へ参加する機会を持つようにしている。			
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな研修の機会やグループホーム連絡協議会の研修で交流の場があり、意見交換を行っている。また、他同業事業所の運営推進会議に出席させて頂き、質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	(西)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で、ご本人、ご家族の困っていること、不安、要望等を十分に聞かせて頂き、安心していただけるような、サービスの提供を行うことで、良い関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞かせて頂き、不安を解消できるようなサービスを提供することで、安心していただけるような、よい関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難な場合が発生した時は、ご本人、ご家族の理解を得た上で、他のサービスの利用も含めた対応ができるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、人生の先輩として経験豊かな入居者様から教えられることは多い。家事等、関わりの中で、スタッフが意識的に教えて頂けるような場面作りをしたり、役割を持って頂けるように働きかけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各催し等において、ご家族には積極的に参加して頂き、一緒に食事したりして楽しませている。散歩に行ったりして絆を深めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの美容室やスーパー、馴染みの人と顔を合わせるような場所には、出来る限り出向いていける支援を行っている。		なじみのスーパーや温泉に行き、知人に会い世間話をしたり、飲食(ノンアルコール)を楽しんでいる。また、季節のツワブキの皮むき作業なども取り入れ、喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わり、支え合える関係が持てるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	(西)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で利用が終了されても、ご家族の相談に応じたり、訪問したり、電話連絡を行うなどの支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのように暮らしていたかをご本人の言葉や生活歴の中から探り、職員で話し合い、『笑顔』が見られるよう支援している。		会話をしながら、日々の表情や仕草で思いをくみ取り、把握に努めている。利用者の一人が怒り始めると、排せつのサインであると察知し、処理後に落ち着かれるなど、その人の思いをくみ取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、本人から聞き取りを行い、ご家族やケアマネージャーからの情報収集を行うようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分な情報収集のうえで、計画に反映させ、日々の暮らしの中から、有する能力等の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らせるために、ご家族に意見・要望、アセスメントの内容を勘案のうえ、毎月のカンファレンスで、職員の意見やアイデアを反映しながら作成している。		利用者や家族の意見、要望を聞き、本人主体の介護計画を作成している。また、日々の記録や毎月行うモニタリングを参考に、定期的に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自施設のデイサービスに行ったり、ユニット間で交流したりして、ご本人やご家族の想いに寄り添えるよう、柔軟な支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	(西)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との交流や見守りパトロールを実施、地域のボランティアの方々の訪問も多く、協働で支援している。また、近くのスーパーなどに買い物に行ったりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者それぞれが掛かりつけ医を持っており、家族付き添いの受診を行っている。状況提供書を作成し、適切な医療が行われるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、普段関わる中での変化について記録し、看護師に報告することとしている。入居者が安心して生活できるよう、日々健康管理に努め、看護職が中心となり、病院や家族との連絡を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要になった場合は、サマリーを提出したり、お見舞いに行ったりして、リロ・ケーションダメージを最小限に抑えられるようにしている。また、早期に退院できるよう、病院関係者とは密に連携を取っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期生活支援に関する覚書を説明し、ご本人の意向、ご家族の希望等を聴き、サインを頂くようにしている。変化が生じた時には、主治医からの説明と共に、ホームの方針や起こりうるリスクなどもご家族に説明して、今後の支援の方向を検討するようにしている。	契約書に、ホームの方針が記載されており、契約時に覚書と共に説明して、本人、家族の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や毎月の勉強会で看護師が中心となり、知識・技術の習得を図り、実践力を身に付けるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、年2回避難訓練を実施し、利用者様の安全な避難方法を確認している。災害の発生時に備えての食料などの備蓄等、検討をしていきたい。	定期的に消防署の協力を得て、地域住民にも協力の声掛けをしながら避難訓練を行っている。5月には地域避難訓練があり、参加を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	(西)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の力に応じ、声掛けや対応を行い、否定せずにご本人の話をよく聞き、プライバシーを損ねるような対応にならないように努めている。		自分をケアされる側に置き換え、言葉かけや態度に気をつけるように心がけているが、まれに問題行動時のとっさの声掛けや呼称において、配慮に欠ける時がある。	利用者に対する言葉の内容や語調が適切であるか再確認しながら、接遇の勉強なども取り入れ、誇りやプライバシーの確保の徹底を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望で、自己決定に結び付けている。表せない利用者様は、表情やしぐさなどから思いをくみ取り、自己決定に近づけるよう努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意向を優先して、散歩や買い物の付き添い等、楽しくホーム生活が送れるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向で、洋服など好みを見つけ出し、その人らしい身だしなみを支援している。理・美容については、必要に応じ、訪問美容やなじみの業者へ通っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを取り入れ、食事の準備はご本人のできる範囲でして頂き、食事も利用者様と職員が同じテーブルを囲んでいる。		介助の必要な利用者が数名おり、職員は同じ料理を共に食べ、声掛けしながら食が進むよう配慮している。また、個々に応じ、食べやすいように料理形態が工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて献立を作り、一人ひとりの食事、水分量を把握するようにしている。その人の状態にあわせて、食事の形態やメニューを変更している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの支援を毎食後に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握し、ご自身で行かれる方には、声掛け誘導をさりげなく行っている。日中は、出来る限り布パンツを着用し、トイレで排泄するように支援している。	排せつ表を利用し、できる限り、立位可能な利用者でもトイレでの排せつを促し、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけ、排便状況を把握し、水分補給や食事に気をつけている。薬に頼りすぎず体を動かしたり、腹部マッサージを行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴となっているが、ご本人が入りたくない時は翌日にするなど、臨機応変に対応している。入浴時は、楽しく入浴できるよう、ご本人の好む話をしながら支援を行っている。	隔日の入浴となっているが、希望があればいつでも入浴することができる。入浴を嫌がる方には、時間を見計らったり、声掛けを工夫するなどして、楽しい入浴となるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースで自由に休息を取って頂き、夜間は、居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、薬剤情報を確認し、医師の指示通りに内服できるよう、二人で確認し、服薬するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように、その人の力に応じた役割を担ってもらったり、個々の希望に沿った気分転換等にも対応できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、ご本人の希望にそって、ホーム周辺の散歩や見守りパトロールに出かけたり、近くのスーパーに買い物に出かけたりしている。身体機能の低下に伴い、外出を好まない方が増えているが、車椅子を利用し、身体に負担がかからないように支援している。	庭やホーム周辺の散歩、スーパーへの買い物、見守りパトロールに出かけるなど、日常的に外出支援をしている。また、花見や海の見える公園へのドライブも取り入れ、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や力に応じて支援している。買い物に出かけた際には、出来るだけ本人の力で買い物ができるように支援している。手持ちがないと不安に感じる場合には、ご家族と相談のうえで、少額の現金を持って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたい時は、職員がとりつぎ、電話をしている。ご本人がかけることの出来ない利用者様には、職員と一緒にかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の部屋は、ご家族の写真や行事の写真を飾ったり、ホームに咲いている草花を飾ったりして、生活感や季節感を出すようにしている。	共用空間は、2ユニットに囲まれた中庭に面し、柔らかな明るさで落ち着いて過ごせる場所になっている。壁には、職員と一緒に作った季節感のある作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルには、気の合った利用者様同士が近くに座れるように配置している。また、居間を活用しながら、利用者様同士や職員を交え、談話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの物を置いて頂いたり、ご家族の写真を飾られたりして、居心地よく過ごせるように工夫している。	家で使い慣れていたソファやポータブルトイレ等が持ち込まれて、安心して暮らせる場所づくりがしてある。また、好きだった犬の実物大の置物や大きささまざまなぬいぐるみが持ち込まれ、本人の思いも大切に配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫している。		